

I 学習の様子

<p>【課題の設定】 10月～12月</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月までに実施したインタビューやアンケートの結果に基づき、再生チョークに関する課題を整理するとともに、試作を繰り返しながら、課題の再設定を行った。 	
<p>【情報の収集】 1月～2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業の方によるZoomでの講話を通して、リサイクル商品の安全性やものづくりについての知識を広げるとともに、再生チョークづくりに関する疑問点も解消することができ、設定した課題への理解が深まった。 	
<p>【整理・分析】 2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けた取組を「今すぐに自分たちで実践できること」、「長期的に取り組むこと」、「収集した情報の発信方法」に分類して整理した。また、校内カフェの営業時には、再生チョークに関する報告動画を紹介し、視聴者からの感想や意見を参考に取組の具体化を図った。 	
<p>【まとめ・表現】 2月</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の特色を生かした持続可能で再生を意識した取組について、企業と連携して行ってきた成果等を普通科の他学年へ報告したことで、安全で再生可能な取組について改めて考えるきっかけとなった。 	

II 探究活動の成果

<ul style="list-style-type: none"> インタビューやアンケートの結果を基に、課題解決に向けた取組内容を整理する中で、「自分たちが作りたいものづくり」という視点から、「他者が求めるものづくり」という他者を意識した視点へと考えを深めることができた。 「日本理化学工業株式会社」との関わりを通して、課題解決に必要な情報を幅広く収集・整理することができ、取組の充実につながった。 カフェを利用する地域の方や企業との関わりを通して、その経験を学校の特色や将来の進路と結び付けて、働き続ける自分の姿を具体的に思い描き、自分の生活を考える様子が見られた。また、地域や社会の一員として、主体的に社会参画・貢献しようとする意識の向上にもつながった。
--

III 今後に向けて

<ul style="list-style-type: none"> 質の高い探究的な学びを実現するために、学校の特色を生かしながら取り組んだことをどのように地域へ発信していくかを検討するとともに、再生可能な取組を吟味する必要がある。 今年度の取組内容を次年度へどのように継承していくのかについて、学年単位だけでなく学科全体として計画的に進められるよう検討する。 取組を広く周知するとともに、生徒の将来の進路と関連づけながら、外部との連携の在り方を模索する。 ものづくりでは、安全な商品づくりを意識することが重要であるため、安全性に関する学習機会を積極的に設ける必要がある。
